

業績／主要な経営指標等の推移

Jimoto Holdings

経済環境

平成25年9月期における国内経済は、各種経済対策や金融政策を背景とした円安・株高の効果を受けて、企業収益の改善や個人消費の持ち直しがみられるなど、景気は緩やかな回復の動きとなりました。先行きは、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクを抱えているものの、生産・所得・支出の好循環が続くもとでさらなる景気の回復が期待されています。

当社グループの営業エリアである宮城県経済は、個人消費など一部に弱めの動きが見られたものの、総じて震災復旧に伴う公共工事や住宅工事などを中心に東日本大震災からの緩やかな回復の動きが続きました。また、山形県経済は、鉱工業生産において弱めの動きが見られるものの、個人消費や雇用情勢に回復の動きが見られ、全体的には下げ止まりの傾向となりました。

じもとホールディングス

■業績

このような環境のもと、当社は、銀行子会社であるきらやか銀行及び仙台銀行とともに、「じもとグループ」として、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、東日本大震災からの地域経済の復興、中小企業の発展への貢献に取り組んでおります。また、平成25年4月より、地元中小企業者への「本業支援」をグループの中長期的な経営戦略として掲げ、経営者の経営課題を徹底的に聴き、事業発展に向けた様々なニーズや課題等を解決するべ

く、グループ役員が一丸となって、人材育成や組織づくり、お客さまへの訪問活動を展開しております。

経常収益は、資金運用収益及び役員取引等収益の拡大に努めた結果、211億30百万円となりました。経常費用は、物件費を中心とした経費節減に努めた結果、179億32百万円となりました。その結果、経常利益は31億97百万円、中間純利益は31億53百万円となりました。

主要な経営指標等の推移（連結）

(単位：百万円)

決算年月	平成25年9月期	平成25年3月期
連結経常収益	21,130	33,838
連結経常利益	3,197	2,036
連結中間（当期）純利益	3,153	1,950
連結（中間）包括利益	1,893	7,533
連結純資産額	105,119	103,651
連結総資産額	2,472,137	2,349,214
1株当たり純資産額	244.37 円	236.54 円
1株当たり中間（当期）純利益金額	16.55 円	10.33 円
潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益金額	6.79 円	3.92 円
自己資本比率	4.20 %	4.36 %
連結自己資本比率（国内基準）	10.74 %	10.67 %
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,663	65,971
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 24,343	△ 80,821
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 442	9,644
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	139,677	112,800
従業員数 (外、平均臨時従業員数)	1,787 人 (652 人)	1,736 人 (616 人)

- (注) 1. 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 当社は、平成24年10月1日設立のため、平成24年9月期以前の経営指標等については記載しておりません。
 3. 当社は、平成24年10月1日付で株式会社きらやか銀行（以下、「きらやか銀行」という。）と株式会社仙台銀行（以下、「仙台銀行」という。）の経営統合にともない、両行の共同持株会社として設立されました。設立に際し、きらやか銀行を取得企業として企業結合会計を行っているため、平成25年3月期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）の連結経営成績は、取得企業であるきらやか銀行の平成25年3月期の連結経営成績を基礎に、仙台銀行の平成24年10月1日から平成25年3月31日までの連結経営成績を連結したものととなります。
 4. 1株当たり情報の算定上の基礎は、23ページの「1株当たり情報」に記載しております。
 5. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末少数株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 6. 連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく平成18年金融庁告示第20号に定められた算式に基づき算出しております。当社は国内基準を採用しております。